

インドネシアの感染症

昨年8月27日、約70年ぶりにデング熱が日本でも感染が確認されニュースになりました。デング熱は、インドネシアでも特に雨季には毎年多くの人が感染・発症し、病院のベッドが不足、廊下にストレッチャーを置いて患者を収容する映像がテレビニュースで見られるほどの流行になります。

重症化してデング出血熱になるとチフスなどの合併症も発症して重篤な状況になることもあります。多くの場合、良好に回復しています。ただしどんな病気でも同じですが、感染・発症時に体力が落ちていると、病状が悪化しやすくなりますので、適度な休養や適切な食生活などの、基本的な健康管理は欠かせません。

このほかにもデング熱とよく似た症状のチクングニヤ熱、赤痢アメーバ症、腸チフスなどインドネシアでかかりやすい病気は少なくありません。これらの病気は都市部でも多くの感染者がでる、インドネシア全国で流行する病気です。

インドネシアでかかりやすい病気の例

病名	感染経路・潜伏期間	主な症状	治療
デング熱	蚊（ネッタシマカ、ヒトスジシマカ）がウイルスを媒介。発症から1週間は蚊を介してほかの人に感染する可能性がある。	通年で感染はあるが、特に蚊が繁殖しやすい雨季に増加。倦怠感、発熱、関節痛、頭痛などが主訴で、38度を超える高熱が数日続き、その後、発疹が出現する。	主な症状が落ち着いてからも、肝機能障害や倦怠感が数週間、続くこともある。重症化することもあり、注意が必要。ワクチンや特効薬はないため、防蚊対策が重要。
チクングニヤ熱	デング熱と同じ。	デング熱と似ているが、手指、手首など関節が腫れ、痛みが強く長引きやすいのが特徴。	デング熱と同じ。
赤痢アメーバ症	飲食物や汚れた手指を通じて経口感染。 潜伏期間：数週間	粘血便を来たす重症の「アメーバ赤痢」が有名だが、軽傷の下痢、腹痛で血便を伴わない場合もある。	特効薬（メトロニダゾール）があるが、服用すると倦怠感や気分の落ち込みなどが出やすく、妊娠中などは使用できない。
腸チフス	飲食物から感染。	「腸」に限らず、全身の細菌感染症。発熱・全身消耗が主症状で、治療開始が遅れると重症化し致命的になることもある。治療が不十分だと長期間排菌するまた再発することもある。	予防ワクチンはあるが、日本では未認可。インドネシアでは接種が可能。

在インドネシア日本大使館ウェブサイト情報より、抜粋して作成。

最新の情報は、同サイト等でご確認ください。

このほかにも日本人にはなじみのない、あるいは近年あまり日本では感染が無い病気では、マラリアが挙げられます。マラリアは日本でも1935年ごろまでは年間数万人の患者が発生していましたが、媒介するハマダラカという蚊の撲滅などの結果、現在は海外で感染する「輸入マラリア感染患者」のみの発生で、年間100人から150人ととどまっています。

現在、日本にはマラリアを媒介とする蚊が2種類生息している（三日熱マラリアを媒介するシナハマダラカ＝日本全国に広く分布、熱帯熱マラリアを媒介するコガタハマダラカ＝宮古・八重山諸島に分布）ので、温暖化が進めば、日本国内での感染の可能性もあります。

また日本ではワクチン接種などで、狂犬病や一部のウィルス性肝炎などは現在はほとんど発症が確認されていませんが、インドネシアではいまだに多くの方が感染しています。さらにインドネシアでは「季節型インフルエンザ」の流行はなく、「インフルエンザ」と言えば「鳥インフルエンザ」または「新型インフルエンザ」が連想されます。特に鳥インフルエンザは早期の診断が難しく、回復についてもあまりよくないケースが多く、怖い病気として認識されています。

気候や風土の違いはもちろんです。医療体制や病気そのものに対する知識なども日本とインドネシアでは異なります。一デング熱やマラリアは日本人にはなじみが薄い一方、日本で毎年流行る季節型インフルエンザや熱中症、しもやけなどはインドネシア人にとっては全く知らないと言っても過言ではない病気です。やはり気候が違えば流行る病気も異なりますので、インドネシアを訪れる際には注意が必要です。

その他に注意が必要な病気の例

病名	感染経路・潜伏期間	主な症状	治療・対策
狂犬病	犬、猫、サルなどに噛まれて感染。	—	特効薬はない。 特にバリには野犬もいるため、あらかじめのワクチン接種が無難。万が一、噛まれた（擦過傷やなめられた場合も）ときには、一刻も早いワクチン接種が必須。
結核	飛まつ感染、空気感染。	体重減少、寝汗、咳・タンなど 数週間、これらの症状が続く場合は、早期に受診することが肝要。	治療薬はあるが、6カ月以上の治療期間を要する。
ウイルス性肝炎 (A/E型)	A型・E型：食物、水から経口感染		A型：ワクチン接種が可能。 E型：ワクチンはない。
マラリア	ハマダラカから感染。 5種類の人が感染するマラリアのうちインドネシアでは熱帯熱マラリア、三日熱マラリアが多い。ただし、都市部ではほとんど発症なし。	潜伏期間はたいていの場合、数日～1カ月（ただし、1年近い潜伏期間の場合もある）。 発熱、悪寒戦慄、頭痛、下痢など再燃（熱帯熱マラリア）、再発（三日熱マラリア）もある。	抗マラリア薬の予防内服が可能。
鳥インフルエンザ	偶発的な鳥からの感染。 (インドネシアでは、ヒト→ヒト感染はほとんどない)	発熱、全身倦怠感、咳、タン、頭痛、呼吸困難など。 ただし、微熱しか出ないこともあり、早期診断は難しい。	インドネシアでは、指定病院を中心に抗インフルエンザ薬「タミフル」が備蓄されている。 同国内ではまた、事業所単位での購入・備蓄も可能。

在インドネシア日本大使館ウェブサイト情報より、抜粋して作成。

最新の情報は、同サイト等でご確認ください。

<これまでの岡山県インドネシアビジネスサポートデスクレポートは[こちら](#)から>

★岡山県インドネシアビジネスサポートデスク (PT. JC内) 概要★

所在地 : Rukan Tanjung Mas Raya Blok B-1 No. 38,
Jl. Raya Lenteng Agung,
Tanjung Barat, Jagakarsa, Jakarta Selatan 12530

デスク担当者 : PT.JC 武井 和宏 (たけい かずひろ)

対象エリア : インドネシア全域

※「岡山県インドネシアビジネスサポートデスク」では、岡山県内に事業所を有する企業や経済団体等のインドネシアでの事業展開を支援しています(岡山県から[公益社団法人 日本インドネシア経済協力事業協会](#)に業務を委託)。ご利用に当たっては、「[岡山県インドネシアビジネスサポートデスク](#)」[利用の手引き](#)をご覧ください。また、[岡山県産業企画課マーケティング推進室](#) (電話 086-226-7365) までご相談ください。

※本レポートは岡山県内企業のインドネシアでの事業展開の一助とするため作成されたものであり、サポート対象に該当しない個別のお問い合わせには対応していません。